



【千葉銀行一宮支店長賞】

いぐち やすこ
井口 泰子

父への手紙

井口 泰子

天国にいる父さん、こんにちは。

父さんが亡くなって、3ヶ月が経ちました。94歳でした。

私は最初の1ヶ月ぐらいは、父さんの遺影を見て泣き、友だちに会い、父さんの話をすると、すぐ泣き出しました。

私にとって、父さんの存在がこんなにも大きかったとは、生きている時は全く気づけませんでした。

父さんは、戦争に行かされ、戦後の混乱期を生き抜き、仕事に邁進し、家族を深い心と大きな力で支えてくれました。

父さんが92歳の時、毎朝、鏡の前で「今日もがんばるぞ。負けてたまるか。」と声を出し、笑顔で自分を鼓舞していました。私はそんな父さんを、感動して見ていました。

体が少しずつ弱っても、自分にできることは自分でやろうと努力しました。寝たきりになった時も、自分のことより、家族のことを心底気にかける父さんでした。

父さんの生き様から、私はたくさんのことを学びました。粘り強く努力すること。人に頼らず、自分のことは自分ですること。健康に気をつけること。お金を大切にすること。

私の今の生き方は、父さんが全て教えてくれたものです。私は92歳まで生きていたら、父さんのように自分を叱咤激励して、生きていこうと思います。

父さん、あなたは凄いです。本当に凄いです。私は今、しみじみ思います。

父さん、あなたの子どもでよかった。

(神奈川県 / 69歳 / 女性 / 無職)



父が亡くなり、父への想いを書きたかったです。